



写真:ヤマブシタケ (撮影:平成29年12月1日)

# 「ヤマブシタケ」

焼酎文化と接点があるキノコ

**秋**も深まった頃、アバンドン  
 トしらとり郷土の森を歩き、  
 ふと大木を見上げると、なにやら  
 大きくて丸い物体を見つけました。  
 ソフトボール大で針の塊のように  
 見えますが、木漏れ日を浴びて美  
 しくもあります。

ヤマブシタケというこのキノコ、  
 広葉樹の枯れ木や洞から発生しま  
 す。和名は、山伏が胸につける  
 梵天ぼんてんに似ていることからつけら  
 れたようです。他にも、南九州では  
 「上戸茸」とも呼ぶ地域があります。  
 飲めない下戸が、懐に乾燥したヤ  
 マブシタケを隠し、焼酎を吸わせ  
 て飲んだふりをしたことからつけ  
 られたそうです。

多くの国で古くから食用、薬用  
 として利用され、それぞれの国や  
 地域で多くの呼び名があるよう  
 です。日本各地、えびの市内の店頭  
 でも栽培されたものが見られます。  
 焼酎文化と接点のあるヤマブシ  
 タケ。この庶民的なキノコを探し  
 に秋の霧島山を歩いてみませんか。  
 「飲ん方」の話のタネにもなるかも  
 しません。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

ヤマブシタケ  
*Hericium erinaceum*

ベニタケ目 サンゴハリタケ科

